

## 【足立区地域自立支援協議会相談支援部会】会議概要

会 議 名	令和5年度 第2回 【足立区地域自立支援協議会相談支援部会】		
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター		
開催年月日	令和5年9月21日（木）		
開催時間	午後2時00分～午後4時00分		
開催場所	障がい福祉センター 5階ホール		
出席者	森 和美 部会長	青木 綾子 委員	中出 敦子 委員
	谷内 秀和 委員	山田 尚美 委員	小杉 信之 委員
	石井 達雄 委員	関口 久美 委員	山本 克広 委員
	オブザーバ 末永 健		
欠席者	片桐 愛子 委員 オブザーバ 田口 由香		
会議次第	1 開会 障がい福祉センター所長挨拶 2 議事 相談支援の立ち位置から見える足立区の地域課題について（意見交換） 3 事務連絡		
資料	配布資料 【資料1】次第 【資料2】席次 【資料3】令和5年度第1回相談支援部会議事録		
その他	公開状況：公開 傍聴：1人		

## 様式第2号（第3条関係）

（協議経過）

### 1 障がい福祉センター所長挨拶

○佐々木事務局員

みなさんこんにちは。時間になりましたので、ただいまより第2回相談支援部会を始めさせていただきます。議事に入る前に障がい福祉センター山本所長からご挨拶させていただきます。

○山本所長

皆様こんにちは。障がい福祉センター所長、山本でございます。一昨日あたりまでは本当に暑い日が続いておりました。昨日・今日は雨が急に降りだすなど、ちょっと不安定な状況になりましたので、また違う意味で体調管理が必要かと思えます。皆様方も充分お気をつけただけたらと思えます。この相談支援部会は障がい者の方、またご家族の方等が、地域で安全で、そして安心して生活していただくために、様々な議論をしていただくわけですが、前回も地域にあります医療機関、資源、また施設とかそういった情報をどのようにお伝えしていくかという点で協議していただきました。本日はグループワークも含めて、また議論していただきたいと思えますので、最後までよろしくお願ひしたいと思えます。

それからこの場をお借りしまして、今日のテーマとは全く別で恐縮なんですけど、足立区の方から周知してほしいことを2点ばかり、共有させていただきます。1点目は刑法犯認知件数についてです。警察に被害届とか出した場合の数字が公表されておりますが、足立区は以前ずっと23区で一番多くて、その後努力して下の方から何位ぐらいに上がってきたんですが、また最近増えてきております。特に多いのが、これも繰り返しお伝えしてお

りますが、自転車の鍵かけ忘れです。ご自分の家であっても、またお店の前に短時間であっても、鍵をかけ忘れると持っていかれてしましまして、それが被害届ということで刑法犯認知件数の積み上げにつながってしまうという傾向がまた最近ありますので、お知り合いの方も含めてお伝えしていただければと思います。

2点目はまだまだ台風シーズンであると思えますけれども、8月も9月の上旬も、いくつか台風が近づいてきています。最近では線状降水帯と言って、長時間また逆にいつどこで起きるか分からないような、台風の本体はこのような進路で来るっていうのは分かりますけれども、線状降水帯はいつ何時起きるかわからないというような難しいところがあります。最近ですと十三中とか、花畑第一小とかに避難所を前もって設定しました。結果的には、足立区内は水害等はなく千葉県、茨城県の方では被害があったと伺っております。避難者ゼロで済みましたが、ここはいつ何時から避難ができますという情報を前もってお知らせすることがなかなか難しいです。今のところはLINEとかAメールとかでお知らせしてはいますけれども、台風が近づいてきたなという場合は、そういう情報にちょっとアンテナを張っていただけると助かります。以上でございます。本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

○佐々木事務局員

ありがとうございました。それでは本日の議事に入る前に、今日配布した資料を確認します。

～配布資料の確認～

今日議論していただいた内容を、議事録として起こす際に正確に起こしたいということで、今日もICレコーダーを使つての録音をさせていただきます。ご発言の前に名前を、それからできれば少しゆっくりめにお話をさせていただけると助かります。よろしく願いいたします。

それでは議事の方に移りますので、ここからは森部会長よろしく願いいたします。

## 2 議事

### ○森部会長

はい、改めまして、よろしく願いいたします。今日はですね、前回の会議でお話をさせていただいた事業所マップ、今プロジェクターに映して下さっているものと、あとは足立区の相談先一覧というものについて、実際にどんなふうに動くのかっていうところを体感していただくためにグループワークにより皆さんの意見を出し合ってください。改善点とかいいねとかっていうのを出し合っていけたらなと思っております。なので、1つ1つ事務局のほうから説明をしていただきながら、ちょっと使い方とか講義じゃないですけど、説明していただきながら、実際に皆さんの席の後ろに三か所で分かれるようにパソコンが置いてありますので、使っていたらと思います。で後半のほうですね。そのグループワークというか、皆さんで出させていただいた意見を発表していただいて、全体で共有ができたらと思います。なので事務局の方から説明をお願いしてもいいですか？

### ○佐々木事務局員

はい。それでは座って失礼いたします。前回もこの地図に関しては紹介させていただいたところなんです。前はですね、まだこちらのほうも不慣れで、きちんとした情報を上手に

出せないということがありました。その後、ほぼ正確な位置で情報をお出しするということができるようになりましたので、改めてこのマップを使って地域の状況を把握する作業をしたいというふうに思っております。今日は、先ほど部会長の方からも話がありましたけれども、3グループに分かれていただいて、実際にこの地図を触っていただいてどういうふうになってるのかを体験いただき、どういうふうにするのもっと良くなるかを意見交換していただきます。あとは、地域の資源の広がりを見ていただいた時に、この辺には情報、事業所が少ないとか多いとかが、わかってくると思っていますので、まあそういったようなところで地域の課題を掴まえるということも意見交換ができるといいかなと思っています。それで、グループの方ですけども、後ろに振り向くとパソコンがあります。3人1組になってます。椅子を置いていないので大変恐縮なんですけれども、ご自身の座っていらっしゃる椅子をそのまま動かしていただいて、お一人ずつ確認というか、操作をしていただいて、話し合いをしていただきたいと思います。

### ～プロジェクターを通して操作説明～

事務局も今日は何人か来てますので、もし分からないことがあれば、直接お伝えいたしますので、まずはやってみようというところで始めていきたいなと思っています。できたら、私はそれぞれの事業所の位置を正確に落としたと言いましたが、本当かなというご意見もあるかと思っておりますので、そのあたりも含めてですね、見ていただけたらと思っています。30分ぐらい、皆さんでやって見ていただいて意見交換をして、それでまた全体での意見をというような形にさせていただきたい

と思っていますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

#### ○森部会長

はい、それでは皆さん後ろを向いていただくと、立ち上がった状態のパソコンを用意していただいているので、実際に使ってみていただけたらと思います。それでは2時42分までお願いします。

～グループに分かれて操作体験～

#### ○森部会長

はい。すいません。予定していた時間を過ぎてしまいましたが、このあともう1回お話していただく時間を取りますので1回戻っていただいてよろしいでしょうか。

はい、それでは今、皆さん直接触っていただきましたので、それぞれのグループからどんな感想が聞かれたのかを教えてくださいと思いますが。

これ真ん中に座ってる人がリーダーとか、そういう関係ないですね。じゃあこちら側のグループから順番にどなたかコメントをいただけますでしょうか。

#### ○小杉委員

はい。マップ作成ありがとうございました。見させていただきまして、まず最初に足立区の強みとしてはこれだけたくさんの事業所があるんだなというふうに、今一度再認識させていただきました。使用した感触としましては、たくさんのマップがあるんですけども、マップを開く時にタイトルがちょっと分かりづらかったりして、どのマップにどのカテゴリーの事業所が入ってるのかちょっと見えづらかったりしたので、その点は改善できそうなのではないかなというふうに感じました。

あとは、そのカテゴリーの分け方が事業所の種別だったんですけども。実際に探す時は障がいの種別などもカテゴリーとしては重要になってくるので、今回は事業所の種別でマップを作っていただきましたけれども、障がいの種別でのマップなんかも作れたらより使いやすくなるのではなかろうかなんていうふうに思いました。あとは、例えば居宅の事業所さんですとか訪問系のものになりますと、事業所がどこにあるかっていうのもある程度目安ではあるかと思うんですけども、実際の訪問のエリアはどこまで対応して下さるのかというのは、これはちょっとマップで見えるものなのかどうかかわからないんですけども、その辺がなんらかの形で情報が得られるといいのかな。まあ、例えばその対象者がどういう方を対象にしていますとかそういう情報が何らかの形で得られるといいんじゃないかなというふうに思います。こういったマップを作ると課題になってくるのが、やはりこうタイムリーな情報更新みたいなところが非常に重要になってくると思ひまして、これはどの資源マップ作られている自治体さんからの話を聞いても難しさを感じる部分でして、もしこういったマップを活用するのであれば、その辺の課題をどうクリア、人的資源を増やして行くのか、その何か今後そういうAI的なものがあつたとして改善されるのかちょっとわかりませんが、こういうものの対策が必要になってくるのではないかなと思ひました。あとは個人的になんですけども、少ないと思われるようなサービスの種別もありまして、短期入所ですとか、入所施設なんていうのは本当に限られた数しかなくて、実際にこの数で足りてるのかどうかというのとはまたちょっと疑問な部分もあるので、不足している事業所なんかも、おそらくマップ作成された方が一番ご苦労された部分だと

思うんですけど、作成のプロセスの部分で、その地域の課題というのが見えて来た部分があったと思いますので、作成された方々のご意見なども少し聞かせていただくとありがたいなというふうに思いました。

○森部会長

次のグループをお願いします。

○谷内委員

こちらのグループではまずパソコンの操作の部分で機器の使い方に慣れていらっしゃる方がいらっしゃるかもしれないとそもそも動かすのが難しいかなというところが挙げられますかね。タブレットであったり、スマホであるというふうに、ちょっと細かすぎて見えづらいという課題があると思いますけれども、ただ、その機器の使い方にまず慣れていかないといけないという部分と、あとはそこが難しくなっている方はサポートできる方がそばにいらっしゃる事が前提になるかなと。このツールを活用する第一の関門かなとの話が出ています。あとは資源マップを見ると視覚的に散らばりを捉えられるんだってことはやっぱり有効で、ご自宅のそばだったりとか、現在使っているサービスがちゃんとパソコンに載っている。将来的に予想されることに対して、サービス提供できるかどうかというところを検索できる所は有効という話がありました。

ライフステージに従って使えるサービスとかも変わっていくにあたって、区内のサービスに通っていらっしゃる方もいれば、また居住に伴って区内に戻ってくるとか、そういったときになると区内の情報だったり、区外の情報もやっぱりちょっと同時に共有して行く必要があるというところで、まあこういった社会資源マップにより広がりを持たせることができれば、より有効ではないかという話が出

ています。

あとはそうですね。それぞれの福祉サービスの事業所をクリックして行って、最終的にホームページ等もあれば、もちろんそこはより具体的に知ることができると思うんですけども、やっぱり無いところもあったりすると、そもそもサービスの質であるとかサービスを提供できるのかというところを、やっぱり個別に問い合わせることでしか把握することができないところがまだまだ難しいと個人的には感じたところではあります。あとは個人的にはやっぱり相談支援事業所としては、こういった一覧ができるっていうところはとても待ち望んでいたことでもありますし、これだけ私自身が認識したものよりもずっと数が区内にはあるんだと改めて発見することができたので、これ自体がとても相談支援事業所の質を高めるというかマンパワーを助けることであるかなと思いますので、これを活用することで、広めていくことで、今現在つながっている方もそうですけれども、まだつながっていない方に対してもこういったマップがあれば適切に窓口を案内することができるんじゃないかなと感じたところではあります。以上になります。

○青木委員

はい。私たちのグループも具体的に地図を見るだけで、例えばご自宅からの距離のようなものがすごくわかりやすくなっているのとか、相談を聞きながら、あるいは相談をしながら、一緒に探したりとか調べることができて、さらにその先にホームページの情報もつながっているところがすごくいいなというふうに感じました。自分が主として対象にする方以外についての相談を受けて、こういうことを知りたいんだけどということでお問い合わせいただいた時にも、例えばこれがあれ

ば、そのサービスと事業所について、少なからず紹介することができるといった時には、先ほどの谷内委員もおっしゃったとおり、相談支援専門員あるいは相談に携わる人たちのスキルの向上につながる可能性があると思います。共通する意見ですけれども、対象がどんな対象なのか、例えば身体・知的・精神・児童、誰でも対象としているのか、あるいはそうではないのかというようなその事業所の得意とするようなことも、もしかしたら載ってればいいのかとか、介護保険系の事業所もあるといいのかなというふうに意見がありました。すでに出ていることですけれども、やはり更新ですね。新しい情報というのは、やはり情報としては意味があるというふうになった時には、誰がどういうふうに更新しているのかということ。検討の余地があるのではないのかということと、私たち相談支援事業所であるとか、相談支援専門員だけがこれを活用するのではなくて、例えば行政の窓口にもたくさん相談に行かれる方もいるかなというふうに思った時に、まだどうしてもセルフプランの方も実際に多い状況だと思うと、ぜひ行政の窓口の方たち、福祉事務所の方たちなども、ツールを同じように使って、情報提供してもらえると良いのかもしれないというような話がありました。

#### ○森部会長

はい、ありがとうございます。グループワークすると、普段になくたくさん活発なご意見が伺えるなんていうところを感じました。本当に使い勝手の良いものだって思って、早くこれが実際に使えたらいいのに。私の個人的な感想なんですけど、グループホーム開いたら事業所名が同じ事業所名がうわーっと出てきて。あれはユニット名にはならないんですね。うちの法人全部、あだちの里地域生活

支援センターって20箇所出てきたんですけど。

#### ○佐々木事務局員

作り方かとは思いますが。

#### ○森部会長

先ほど小杉さんから、やってみて、エリア別にみたいな感想もあったので作成した方からちょっといただいてもいいですか。

#### ○佐々木事務局員

はい。先ほどからお話がある居宅の事業所ですとか訪問介護の事業所、実は足立区にはたくさんあるんだというところ。一部無い地域がありますけど、比較的散らばっているんですね。それから、この2つのサービス事業を提供しているそのほとんどが同じ事業所ということです。もちろん重度訪問介護だけ単独でやっているところもないわけではないんですけど、だいたい重度訪問と居宅介護は合わせてやっているところが多いという状況でしょうか。なかなか地図上だけでは見えないですけれども、重度訪問介護は制度としてはあるんですけども、なかなか受けてくださる事業所さんが見つかりません。こんなにたくさんあるように見えても実際には利用が難しいという実情があったりもする。さすがにそこまでは表わし切れませんが、オブザーバーで来ている援護の担当者はよくわかっていると思うんです。足立区では重度訪問を探すのが結構大変な状況があると思います。あと入所の施設ですが、足立区には3つしかありません。短期入所も前よりは増えているんですけども、やはり少ない。地域生活支援拠点等や地域のことを検討している会議体はありますけれども、まだまだ足立区は、サービス決定者に比べて、短期入所の事業所が

これしかないということになると、とても足りない状況だから、どうして地域を出て短期入所の利用をせざるを得ない方も多くいらっしゃるだろうというところ。そういったような課題も見えたりします。就労支援の関係ですと、就労移行支援なんかは割と沿線ですね。東武線沿線に集まっていたりするので、やっぱりその事業の特徴というか、特性ですね、エリアの方も絞られるところが出てくるのかなというところも感じました。先ほどのあったらいいなというところの情報に関しては取れる情報と取れない情報がどうしても出てきます。ホームページに関してですが、今回作成のものは初回でしたので地道に事業所を検索して該当ホームページに行き、リンクさせるという、すごく地道な作業したんですけども、次回以降はいくらか楽にできると思いますが、ただ事業所の種別が非常に多いので、地道な作業は残ります。今日は触っていただいているんですけども、まだ公開していないものですので、相談支援事業所の皆さんや民生委員の方、普段ご相談に応じていらっしゃる方が、ご自宅でも確認したいということであれば、一緒に修正作業もお手伝いいただくと非常に良いものができると思います。先ほどの障がい種別だったり、何歳から使えるのかとか、そういう見えない情報のところ、ホームページに行ってもなかなか取れない情報というのは、やはり問い合わせしていくしかないで、その地道な作業を皆さんと協力して一緒にやれば情報の広がりもできるかもしれません。相当大変な作業にはなるので、実際やれるかというところがありますけれども、まだまだ工夫ができるところがあるなというふうに思いました。それから見出しですね。本当なら一枚の地図で全部の障がい種が見えるのもっといいんですけども。そもそもマップの仕様上、分けできる数が決まっ

ていて、全種別を一つのマップに載せられないので分けているという状況があります。これはある意味やむを得ないところであるんですが、そうは言っても、もう少し見やすく、見出し見てすぐわかるとかいうのは工夫としてできることかなというふうに思いました。地域別のということも、出てきました。それも住所情報があればできることになりましたので、工夫次第では変えられるかなというふうにちょっと思ったところです。以上です。

#### ○森部会長

はい、ありがとうございました。まだまだ改善の余地があるというところで、公開をしていただける日を楽しみに待っております。はい。では、後半ですけれども、もう1つテーマのところでは足立区の相談先一覧というのを前回見ていただいたところなんですけれども、その後、事務局の方で改善点についてということで発信をしていただいて、皆さんからアンケートを集めていただいたところなんですけれども、その辺は特に大きく改善するようなことはなかったんですね。

#### ○佐々木事務局員

はい。この点については、前回の部会のところでも検索の仕方を工夫しないとなかなか使い物にならないですとか、今チャットとか流行っている中ではそのようなツールのほうが便利だったりとか、あるいはまとめてはみたものの、非常に情報量が多くて、どうやって使ったらよいか逆にわからなくなるみたいな意見も出ていましたが、その後、特に具体的な提案はありませんでしたので、足立区の資源一覧表は修正をしていないのでお配りもしていない状況なんですけど、何かやはりそれに代わるものというのを我々のほうも考えなければということで、この資源一覧表

ではなく、今日は既にもしかしたら皆さんもお使いかもしれないんですけども、AIを活用した検索方法のご紹介をさせていただきながら、先ほどのグループで試していただいて、意見をいただきたいと思いました。基本的にはこれまでみなさんと作ってきたものの進化系がこのAIだろうと思います。文章や単語どちらで入力しても大丈夫です。ちょっと一度やってみますので画面のほう見ていただきたいと思います。

今日使うのはですね。●●という検索エンジンです。これ●●●も入っているというところでは、おそらく前回皆さんがお話されたイメージに近いものがこれのできるかなと思っています。

#### ～使用方法についての説明～

だいたいまた、20分から30分ぐらい試していただいて、同じように意見交換していただいて、相談業務にどのように使えるのか、活用の可能性などについてご検討いただき、ご意見をいただければと思います。よろしくお願いします。

○森部会長

はい、それでは3時半まで触ってみてください。お願いいたします。

#### ～グループに分かれて操作体験～

○森部会長

はい。そろそろいかがでしょうか。お時間になりました。

はい、ありがとうございます。それでは先ほどと違う方からのお声を聞かせていただきたいなと思います。

○石井委員

驚きました。回答が早いというのが一番いいですね。一般的なことなんでああそうかなってということなんですけど。

私が経験したり、皆さんが経験したことをインプットしていったんですけど、まあ広く一般的なことなので、その先がどうなのってということなんで困ってるんだよね。例えば直近の件で悪いんですけど、たらい回しになったり時間がかかったりということですね。それはない。ただ、ホームレスが近くにいたんで困ってるっていうのは、インプットした時に、最後に警察とかなんか色々出てきましたけど、まあ、「人権に配慮して対応しなければいけない」みたいなね。そういう教科書的なことも出てたり。ああ、そうか。それですぐ出るって、人がやるとね、人間って感情的になるんですけど、機械から文字が機械的に出るから、あ、そうかなって納得できますよね。これ、近所同士で言われると、人間だから感情的な問題があるんでしょうけど、まあ、そういう面がいい、繰り返しになるけれどスピードが速いことと、幅広く答えてくれる。けども、まあちょっと実務では今一歩だと思っています。あとは足立区のPRというか、他の区の人が足立区でこういう問題はどこに相談したらいいのかっていうことが、他の区の人から見ればいいんじゃないのかっていうところでした。

○森部会長

はい、ありがとうございます。お願いします。

○関口委員

関口です。回答が早く、一般的な答えが返ってきます。こちらもたくさんのワードを持って、ぶつけて、探っていくことになります。

障がいの方でいくつかやってみましたが「区の障がい者のしおり」にだいたい載ってますというふうな表現をされるので、どんどん良いしおりにしていかなければならないかと思いました。

対面ですと、感情のぶつかり合いもあるかもしれませんが、「検索」なら落ち着いてできるかと思いました。こちらとしては、知りたいことの引き出しをたくさんもって、「検索」し、思っていたもの以上の回答を期待したいと思いつつ、ちょこちょこいじっておりました。

○森部会長

はい、ありがとうございます。じゃあ山田委員をお願いします。

○山田委員

本当に回答が早くて、隙がなく、一般的にぱっと出てくるっていうところで、また人に相談するというよりも、自分だけに、人に話すのとはまた違って、打てるというところがまた良さかなと思ったりしていて、それがいいのかなと思いましたね。あとはさっき出てこなかったというところが、ああそういうこともあるのかっていうところがあって。まあ「I'm sorry」とか出てきた後になんかやっぱり先ほどの話もそうなんですけど、次につながるような、ここだったら相談に乗ってくれるかもとかってあったらもっとよかったのかなって思いました。

○森部会長

はい、ありがとうございます。AIはまだこれからですね。きっと成長してくれるはずの部門ですし、今、完璧っていうこともないでしょうけれど、使ってみて、ああこういう活用方法があるんだなってちょっと実

感していただけたんじゃないかって思います。はい。ありがとうございます。

本日の議案この2つだったんですけども、まだ今日発言いただけてない方もいらっしゃると思いますので、全体を通して、両方のパソコン使っていたのと、あとはグループワークっていうことも今回初めて部会の中でやらせていただきましたので、その辺の感想も含めて、皆さんから一言ずついただけたらと思います。

○末永オブザーバ

はい。障がい福祉課の末永と申します。いろいろ今日はグループワークを通じて、実際に手にとって、これだけやっぱり私たちも普段区内どこにどういった事業所があるんですかとかって直に聞かれる立場なんですけれども、こういう場所にこんなのもあったんだとか、ここは重度訪問やってるんだとかっていうところの部分は、やっぱりこれは手に取るようにしてわかるっていうところがすごく我々もメリットの大きいものだなと思う反面、先ほどいろいろとやっぱり出てきた中で、障がいをお持ちの方が相談に来るってことなんで、そこはやっぱりより障がいの方々、知的障がいの方とか、3障がいに特化しているところの事業所なんかとかっていうところの部分なんかを、もう少しリアルに分かったらいいかなっていうふうなところに、そういったものもちょっと見えてきたところもあって。でもやっぱりこれは現場の立場からしても、導入してほしいツールの1つだなというところで体験できましたし、あとはAIの件についても、いろいろと障がいに関わること、知的障がいのグループホーム何か所ありますかとかいう形でやったんですけども、具体的なグループホーム2カ所くらい出してあとはこっちに来てくださっていったってやっぱり我々

障がい福祉課のほうに案内する形になったんで、自分たちのスキルアップもちょっと必要になってくるのかなと思いつつ、こういったAIのほうが、そういった区民の方々の初歩的なところの質問にまずは文明の立場で活躍できるってところの部分の、そういった可能性もあの感じたのかなっていうふうにちょっと思ったんで、今後こういったものを導入して行くのも一つの、相談の分野としては考えなきゃいけないのかなっていうふうなところ、いろいろ考えながら、取り組ませていただいたと思ったんで、有意義な時間になりました。ありがとうございます。

#### ○山本委員

障がい福祉センター所長、山本です。いろいろ電子機器を使って、パソコンですね、使って技術的にも飛躍してきてる、先ほど回答が早いっていうのもありますけど、それも電子機器だから出来る事だと思えますけども。区役所側が良くパソコンで何々とか、今オンライン会議なんかも増えてきていますので、それを使って何々もできますとやると、だいたい使えない特に高齢者の方、障がい者の方はどうなんだっていうお話を頂きますので、まあそれは申し訳ないなと思えますけど、一般的に言って普及は進んできていると思います。皆さんがまだ全員っていうわけではないんですけども。こういった技術を使って、今日はパソコンでしたけども、スマホでは小さすぎるということでは、その間にはタブレット端末もあって、巡回とかする時にタブレット端末を持って行かれる方もいらっしゃると思いますけれども、機器のほうも状況に合わせて、使いやすく、また持ち歩きやすく、そういったものが進んでいくのかなというふうに思いながら、参加させていただきました。どうもありがとうございます。

#### ○小杉委員

成仁病院の小杉です。今日パソコンを使ったグループワーク中心で、非常に使える部分と難しい部分と両方発見があったと思うんですけれども、あくまでもデジタル関係のものはツールなわけですし、使うのは結局私たち人間なので、上手く使いこなせることによって、有効に使えるかどうかみたいなことがポイントになってくるのかなというふうに思います。こういうパソコン苦手な高齢者の方ももちろん多いでしょうし、逆にパソコンの方が得意な若い方なんかも多いかと思えますので、いろんな選択肢を持てるってことがすごく大事なのかなというふうに思っていますので、私もいじったりいじらなかつたりなので、いろんな新しい技術に追いつかなきゃいけないというのはつくづく感じる部分ではありますので、こういう情報を自分自身に付与していくっていうこともスキルアップとしては求められていると思えますので、その辺を意識してやっていきたいなというふうには思いました。はい以上です。

#### ○山田委員

今日はありがとうございました。私も本当にもっともつついて行かなきゃいけないなと改めて思いました。いっぱいすごい資源があって、本当にこれが活用できたらすばらしいなと思います。ただ、情報だけにとどまらないで、これからこれがどういうふうに必要なとしている人たちに伝わって、その人たちが行動に至るまで繋ぐというか、そこがまた人になってくると思えますので、その辺がまたこれからののかなと思ったところです。また知的障がいの方たち、ご本人さんたちが今スマホを持たれている方もとても多いので、もう少し関係したところ、将来の悩みごとで進んでいくとこういう窓口があつてみたいにつ

ながっていくといいのかななんて少し期待も膨らみました。ありがとうございました。

#### ○谷内委員

私も今日2つのことを、社会資源の情報につながるツールっていうところを2つ体験してみて、すごく有効に感じるのとまだまだ難しいなというところを感じていて、ただじゃあ今使える状態のものをどう活かしていくかっていうふうに相談支援専門員としての立場で考えた時に、今まで電気を使っていなかった頃、今回のマップであったり、そういったものを、一緒に探してみても提示をして提案していったら一緒に考えていけるということはずごく有効に使えるんだなとイメージしながら思ったんですけども、ただそれはやっぱりただ情報提示するにとどまっています、結局その後につなげるのは、アクションを起こすのは結局自分自身だったりと思うんですけど、ご家族だったり。その働きかけは結局人に動くしかないのかなと考えると、情報につながることはもちろん今まで課題が挙がってたんですけども、まあそれが整ってようやく土台が整う、基礎がようやく整っていくというところにすぎなくて、じゃあそれをどう本当に繋げていくか活用していくかっていうところは結局人の質を高めていくのか、育たなければ、結局宝の持ち腐れなんだなとも思うんですね。有効なものがあるからこそ、それをじゃあどう使っていけるのかっていうところは、試していきながらじゃないと多分そこはまだまだ分からない部分もあるのかなと思うんですけど。なのでそうですね。こういったものが生まれつつあると思いつつも、ただ今ある現状のものではじゃあ自分たちは何ができるか、今一度何がさらにできるのかって言うところも、もう一度掘り下げて振り返っていくことも大事かなとは思ったと

ころではあります。はい、ありがとうございました。

#### ○関口委員

関口です。私はどっちかって言ったら相談窓口に行くほうが多いんです。福祉の窓口の担当に「初めてです。よろしくお願いします」「福祉の担当初めてで」みたいなふうに言われると、あちらはそう言ってるんですけど、こちらとしてはもうプロなんですからねっていうふうに思うことがあって、ちょっと意地悪なんですけど。でも、あのパソコンでこうパーッといろいろ調べてたりすることは、経験差はなく、ツールとして、模範回答が得られるってことでははなまるだと思います。で、それで納得される方はきっとそれでいいと思うんです。だけど対面してやっぱり個々人の事情を汲み取ってがプロの相談かなというふうに思っているのでもそこに収まらずにっていうところかなと思います。さきほど、障がい者のしおりが神だねって言ったんですけども、それを熱く深く突き詰めていいしおりを作るのも必要なんですけど、やっぱり対面の相談に最終的にはなってくると思います。私は子どもが障がいがあるということで相談支援事業所のプランと役所の支援と上手く擦り合わせてもらうのも、そういうケアプランを立てる時の親の希望とか本人に必要なこととか、そういうのが盛り込まれて本当の個人のプランが出来上がっていくので、そのへんはやっぱり血が通ってなくちゃダメかなって思いました。以上です。

#### ○中出委員

あいのお相談センターの中出です。まず資源マップの報告に関しては、やっぱり困るとか今すぐ探したいという方が主にはなると思うんですけど、ただ中には今すぐじゃな

くても確認しておきたいんだとか知っておきたいとか、そういう方もいらっしゃると思うんですね。そういった方たちが探すっていったところでも有効的に活用できるんじゃないかなっていうふうに個人的には思ったのと、何かあった時のためっていうので、私たちもこのツールだけに頼るんじゃなくて、プラスアルファいつもやってる電話だとかつながりだとかっていうところと合わせて確認していくっていうところでもより活用できるんじゃないかなっていうふうに思いました。AIのほうはですね、皆さんが出た通りやっぱり回答が早いってというのが一番の利点かなというふうに感じます。必ずしもその納得できる回答じゃないとか求めている内容じゃないにせよ、回答が速いってというのは一つ、ご相談する側からするといつまでも待たされてイライラしたりっていうところも大きく関わってくるんじゃないかなと思っていて。私たちが解決できない場合にどこかに確認する、じゃ確認している間待たせてしまう。その間、じゃあAIでちょっと探してみようとかなんかヒントがあるかもとか、両方で探して行くというところで、そういったところにも活用できるんじゃないかなというふうに感じたところです。ありがとうございました。

#### ○青木委員

はい、あけぼのの青木です。マップについては可視化されているというところの良さを改めて大画面でもパソコンでも見ることでよかったなというふうに思っています。今やはり、相談支援専門員がなかなか増えないという状況がある中で、足立の中で実務経験を積んで、足立の事業所で相談支援専門員になる方ばかりではなくて、他区から足立区に働きにくるとか、そういう方もきっとこれから増えていって、事業所がもっともって増

えて計画相談支援という支援の一形態がもっと充実していくってことを考えた時に、このような可視化されたツールがやはりあるということで、例えばもう私なんかは住所を聞けばだいたいあの辺ねって、なんとなく景色が目浮かぶような状況ですけれども、本当にこう地域のことを知らない方でも、こう見ながら事業所とつながりを作ったりであるとか、ネットワークを構築するっていうことが少ししやすくなるヒントになるんじゃないかなというふうに思いました。あと、相談支援専門員の立場として、一人のそのケアマネジメントするというだけでなく、地域づくりに関与していくってことを考えた時に、やはりさっきのマップで密なところと事業所がなさそうなところと、そのエリアの違いがあるかなというふうに思った時に、私たち相談支援専門員がそこに事業所を作るわけではないんだけど、そのエリアに住んでいる方たちにどうサービスをつないでいくかであるとか、あるいは参入していただくために、例えばどんな働きをするのかみたいなことに、例えば提言をするみたいなことで、何らかの形でより充実したふうにしていけるような、そんな可視化されたツールでもあるのかなというふうに思いました。AIは入力する能力が必要なんだろうなあっていうふうに思いました。AIリテラシーというか、AIに答えてほしい、答えて欲しいものを答えてもらいやすくするための質問ができないといけないんだなっていうのを改めて確認しました。あとグループワークは石井委員を交えてさせていただいて、改めてこう小さなグループでお話することによって、石井委員の人柄とか、実際にされている活動なんかを教えていただくこともできた非常に有意義な時間でした。ありがとうございました。以上です。

○石井委員

民生委員の石井です。ここまでこういう議題っていうかね、よく進化して、かなり完成度が高いんじゃないかと個人的に思っています。あんまり高くやっても専門書作ってるようなもので、ええとちょっとという感じがしております。でも素晴らしいことだと思えますよ。で、最初に作ったライフステージのあのA3の表は、さっそく民生係の私のほうの年末の勉強会に使わせていただこうかなと思ってます。活用できる、しようと思ってます。今回のあれは本当にこれ活用できるのかなって・・・いいものですよ。それからもう一つ、民生委員の立場で少し発言したいんですけど、6月に神戸で不幸な事件が起きましたね。6歳の男の子が親族から虐待を受けて殺された。神戸市ばかり責めるわけじゃないんですけど、あれには、親族が愛の手帳を持っていたのが複数いて、誰も働いてない、お婆さんも含めて。でそういうことは、足立区で考えれば、福祉が絡んでるし、衛生部も関わってるかもしれない。あと子ども、児童相談所も絡んでますよね。で、複数の箇所が絡んでいるのに、何故もうちょっと横の連絡で、あとまあ、住民の人がどう考えるかわかりませんが、まあ、不幸な事件が起きた。そういうことはもう二度と起こしちゃいけないし。どうしてその行政のところ、悪口じゃないんですけど、どうして横の連絡はもうちょっとできないのか。民間の会社だと、問題が起きれば誰かが音頭を取って担当者を含めて、この問題は誰がどういうふうにしたのが一番効果的なのか、最悪の事態を防げるのか、こういうふうを考えるんですけど。まあ、それぞれ児童相談所が頑張ったみたいなんですけど、ああいう事件が起きてしまう。いうことで、私の個人的な考え方の原点っていうのはやっぱり最悪の事態というかをどう防いで行ったら

いいのか。まあ、それがいつもそんな問題が起きるわけじゃないんですが、もう少し足立区でも、所長が申されたように、新しいいろんなそういう大きな施設ができるんだから、そこにもやっぱり新しい組織を作っていくのに、私たちの支援グループのワーキングがなんかそういう提言をしてもいいんじゃないかなっていうような気もしてるんです。以上です。

○森委員長

はい、ありがとうございます。今日2つの的に絞らせていただいて、パソコン使っていただきましたけれども、やっぱりそこから見えてくるものって、パソコンがどんなに発達しても、それだけですべて解決されているわけではない。皆さんからも出てきた、それに合わせて人の相談員であったりとか、支える人の質の向上っていうのがあって、必要だということ。それから最後にあの石井からちょっとお話ありましたけれども、本当に人のつながりっていうのは、情報共有をしてつながっていくっていうのは絶対に必要で、どんなにツールが発達しても、それだけで障がいの課題だったりとか、それ以外の地域で暮らす方たちの課題っていうのは無くならないんだなっていうのも改めて気づかされたなというふうに思います。ただ、言ってもやっぱり一から百まで一人の力で頑張って調べるなんてできないので、やっぱりあるものは上手に使っていくっていう知恵も私たちには必要なんだなっていうふうに思いますので、今日はその1つの機会として感じていただければいいかなと思っております。で、相談支援に関しては、地域の課題をいかに拾い出して、そこに対してどういうふうに対処に向けて働きかけていくかっていうことが一番の課題にはなりますので、また今後も、石井委員だけで

はなくて、そういう感じる課題っていうのを提案していただけるといいかなと思います。すみません、まとめをする十分が無くなってしまいましたが、事務局にお返ししてもよろしいでしょうか。

○佐々木事務局員

今日はありがとうございました。新しい形で試してみたところではありますが、多くの意見をいただきましたので、これまで活動してきたことというのが総体としては確認ができたというふうに思いました。地域の資源というところを見た時に、地図で示したようにそういう散らばり方をしているというのは、皆さんの方でもお分かりいただけたところで、こういったような情報の引き出しを持つところが、我々相談員の1つの大事なところなのかなというところは確認ができたと思っています。それから今回の相談支援部会のテーマである足立区の地域課題の現状が見えてきたところですが、次回の12月13日木曜日に、まとめの会として実施します。今年度の最終になりますので、意見交換をして相談支援部会の成果を報告できる内容にまとめると良いと思っておりますので、ぜひご参加ください以上を持ちまして、第2回相談支援部会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

以上